



いつも防災の心を

鶴田町総合防災訓練

鶴田町では、地域防災計画に基づき、地域住民と防災関係機関の参加のもと防災訓練を実施して、防災体制の強化や防災意識の高揚を図っています。

今年は、秋の火災予防運動実施期間中の十月二十二日、鶴田町役場を主会場に、日本海沿岸で震度6強の大地震が発生し、建物の倒壊と火災の発生を想定し実施されました。

被害を最小限にするために

最近、新潟県中越地震や岩手内陸地震に代表される大きな地震災害が続いており、多くの人的被害や住家屋被害などが発生しています。

これらの災害に備え、町では防災計画の策定や近隣市町との協体制の整備など、各種防災対策を進めています。

しかし、災害が発生したとき自分の身を守るためには、身近にいる家族や地域の人たちの協力が不可欠になります。被害を最小限に食い止めるためには、私たち町民一人一人の防災に対する知識と対策が必要です。そこで今回は「地震災害」についてお知らせしたいと思います。

突然襲いかかる大きな揺れ「その時に」に備えて

何の前触れもなく起こる地震。予測が困難だけに、いざというとき冷静に行動できる知識、そして日ごろからの備えが大切です。

●事前の備え（自分でチェックしましょう）

- 建物が建っている地盤の状態を知っている
- 建物自体の状態を知っている
- ブロック塀・コンクリート塀の状態を知っている
- 揺れても火を出さないような環境づくりをしている

□可燃物やガスボンベは危険な場所に置いていない

□家具に転倒防止策を施している

□非常用品・消火用品の準備は大丈夫だ

□家庭で地震のときについての話し合いをしている

□地域活動に積極的に参加している

●もし地震が起こったら

①身を守る：（屋内では）机やテーブルなどの下へもぐる。家具や冷蔵庫のそばから離れる。（野外では）塀や軒下、ビルのそばから離れる

②すばやく火の始末：「火を消せ！」と大声を出す。ガスの元栓を締め電気プラグを抜く。しかし、無理はしないこと

③脱出口の確保：ドアや窓を開けて出入り口を確保する

●地震の揺れが収まったら

①出火の確認、火が出たらまず消火：ガスコンロ、ストーブ、タバコの火など

②家族の安全を確認：倒れた家具や柱の下敷きになっていないかを確認

③必ず靴を履いて動く

④外に出るときは慌てずに：狭い路地、川、ブロック塀、自動販売機などには近づかない。切れた電線にも注意

●みんなの無事を確認、火災発生を防ぐ

①行方不明やけが人がいないかを

確認

②漏電やガス漏れに注意する

③火災が発生したときは大声で知らせる（特に高齢者や聴覚障害者）

④電話は、消防車や救急車を呼ぶ緊急連絡を優先する

⑤協力して消火活動、救出・救護活動をする

●避難する

①避難するときは徒歩、持ち物は最小限に

②正しい情報を聞く（デマに惑わされない）

③隣近所ですいしよに避難する↓高齢者、障害者、子どもの避難が最優先

④余震には十分に注意する



大切な人を守るため日頃から十分な備えをしておきましょう。
災害時へ向けて、家庭での備えを再点検してみませんか？

10月号掲載の「ハザードマップ」の避難場所である「胡桃館小学校」の位置が間違っておりました。訂正したハザードマップは役場総務課に準備しております。また、町のホームページにも載せておりますのでご利用ください。